

表3 発癌抑制を目指した血清 ALT 正常 C 型肝炎例への抗ウイルス治療ガイドライン

ALT 値	血小板数	
	$\geq 15 \times 10^4 / \mu\text{l}$	$< 15 \times 10^4 / \mu\text{l}$
$\leq 30 \text{ IU/l}$	2~4 カ月ごとに血清 ALT 値フォロー、ALT 異常を呈した時点で完治の可能性、発癌リスクを評価し、抗ウイルス療法を考慮。	線維化進展例がかなり存在する。可能なら肝生検を施行し F2A2 以上の例に抗ウイルス療法を考慮。肝生検非施行例は 2~4 カ月ごとに血清 ALT 値を測定し、異常を示した時点で抗ウイルス療法を考慮。
31~40 IU/l	65 歳以下は抗ウイルス療法の考慮。	慢性肝炎治療に準じる*。

\*遺伝子型、ウイルス量、年齢などを考慮し、通常の C 型肝炎治療に準じて、治療法を選択する。  
〔文献 1〕より引用

## 2. 発癌抑制を目指した血清 ALT 値正常の C 型肝炎例に対する抗ウイルス治療

Point ④ 血小板数と ALT 値から抗ウイルス療法の治療適応について提示。  
ウイルス排除の可能性が高い場合は ALT 値が正常であっても IFN 投与を検討。

平成 17 年度の研究班で ALT 値正常症例の解析と IFN 治療の効果について検討し、ガイドラインを新たに作成し今回(平成 19 年度)改訂を加えている(表 3)。血小板数と ALT 値から抗ウイルス療法の治療適応について提示している。血清トランスアミナーゼ正常症例に対する治療効果の検討では、トランスアミナーゼ異常例と同等の治療効果が得られている。したがって、血小板が 15 万以上で ALT 30 IU/l 以下の症例では、2~4 カ月ごとに血清 ALT 値をフォローし、異常を呈した時点で完治の可能性・発癌リスクを考えて抗ウイルス療法を考慮した。一方、血小板 15 万以下の症例は、線維化がかなり存在している症例があることから、可能であれば肝生検を施行し、F2/A2 以上の症例に抗ウイルス療法を考慮した。一方、ALT 値が 31~40 IU/l に関しては、血小板 15 万以上で、65 歳以下の症例は、抗ウイルス療法治療を考慮した。血小板 15 万以下に関しては、慢性肝炎の治療に準じるとした。

### おわりに

C 型肝炎に対する治療は、安全性と効果を考慮して、治癒目的の強い治療か、進展予防(発癌予防)の長期療法(IFN あるいは肝庇護剤)を選択すべきである。この治療方針は個々の患者の肝疾患の進行度、年齢、合併症の有無などを考慮し総合的に決定していただきたい。

文 献

- 1) 厚生労働科学研究費補助金，肝炎等克服緊急対策研究事業(肝炎分野)，肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究，平成

19年度総括・分担研究報告書，1-11，平成20年3月

(鈴木文孝，熊田博光)

---

(臨牀消化器内科 Vol.22 No.4, 371-375, 2007 改訂)

2008

# 肝硬変の成因別実態

恩地森一

青柳 豊  
西口修平  
道堯浩二郎

肝硬変の成因別実態 2008 ©

発行 2008年10月30日 初版1刷

監修 おん ち もり かず  
恩 地 森 一

編集 あお やぎ ゆたか  
青 柳 豊  
にし しゅうへい  
西 口 修 平  
みち たか こう  
道 堯 浩 二 郎

発行者 株式会社 中外医学社  
代表取締役 青木 滋

〒162-0805 東京都新宿区矢来町62

電話 (03)3268-2701(代)

振替口座 00190-1-98814 番

印刷・製本/新富印刷(株) < SH >

ISBN978-4-498-14200-8

平川美晴 池田健次 熊田博光

**はじめに**

当院における肝硬変の成因は1991年、1998年にも報告しているようにウイルス性が85%以上である。今回は成因として非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)が加わり、新たに成因分類を行った。さらにウイルス性肝硬変について、予後・合併症についての検討を行った。

**対象**

対象は2008年2月までに当科に入院し、肝硬変と診断した例のうち、抗HCV抗体不測例や診断時までに肝臓合併の見られた例を除外した1946例である。男女比は1252:694(1:0.55)、診断時の年齢は19歳から85歳で中央値は56歳であった。当院通院中の肝硬変患者の年齢の中央値は、診断時以降に肝臓合併がみられた例も含め、1988、1998、2008年にそれぞれ56歳、61歳、66歳であった。Child-Pugh分類ではA:69.4%、B:27.2%、C:3.4%であった。B型肝硬変でHBV-genotypeは、判定不能例を除きC91.4%、B7.4%、A0.9%、DおよびE0.2%(1例)であった。C型肝硬変でのHCV subtypeは判定不能例を除き、1a1.5%、1b74.1%、2a16.8%、2b6.8%、3b0.2%、1b+2a0.2%、1b+2b0.1%、2a+2b0.1%であった。

**成因別実態**

肝硬変の成因別分類を表1に示す。B型528例(27.1%)、C型1157例(59.4%)、B+C型39

例(2.0%)とウイルス性が88.5%であり、アルコール性は93例(4.8%)、NASHは21例(1.1%)であった。代謝性肝硬変5例の内訳はWilson病2例、ヘモクロマトーシス2例、糖原病1例であった。B型はC型、アルコール性と比較して若年であり、NASHはより高齢であった(図1)。またB型、C型、アルコール性では男性が多く、B型とアルコール性では特にその傾向が著明であった。原発性胆汁性肝硬変(PBC)、自己免疫性肝炎(AIH)では女性が多く、NASHでは性差はみられなかった。

**1. 年齢別の成因別実態**

年齢別の成因を図2に示す。ウイルス性は10~70歳代においては86%以上を占めている。図1に示すようにウイルス性の中ではB型は40代をピークとし、C型は50代をピークとする分布を示すため、30歳代まではB型が過半数を占め、40歳代ではB型C型が相半ばし、50-70歳代ではC型が過半数を占める。当院においてNASHは1.1%と少数ではあるが、年齢とともに増加する傾向がみられた。

**2. 年代別の成因の推移**

1970年代~2000年代の年代別の成因別分類を図3に示すいずれの年代もB型、C型、B+C型のウイルス性肝硬変が85%以上を占めていた。

**肝硬変の予後**

死因を①肝臓癌死、②肝不全、③消化管出血、④他病死とすると、全体としては①60%、②31%、③3%、④6%、B型肝硬変では①53%、

虎の門病院 肝臓センター

表1 肝硬変の成因別分類

成 因	症例数 (%)		男	女	男女比	年齢中央値 (最小値-最大値)
	症例数	(%)				
1 B型	528	27.1	409	119	1:0.29	46 (19-82)
2 C型	1155	59.4	752	538	1:0.72	59 (25-83)
3 B+C型	39	2.0	26	14	1:0.54	54 (23-79)
4 アルコール性	93	4.8	92	4	1:0.04	56 (34-84)
5 原発性胆汁性肝硬変	41	2.1	10	31	1:3.1	58 (41-85)
6 その他胆汁うっ滞	2	0.1	2	0	1:0	47 (47)
7 自己免疫性肝炎	21	1.1	5	16	1:3.2	56 (35-81)
8 代謝性	5	0.3	4	1	1:0.25	48 (20-51)
9 うっ血性	1	0.1	1	0	1:0	83
10 寄生虫性	1	0.1	0	1		65
11 その他	4	0.2	1	3	1:3	40 (35-44)
12 NASH	21	1.1	10	11	1:1.1	66 (45-80)

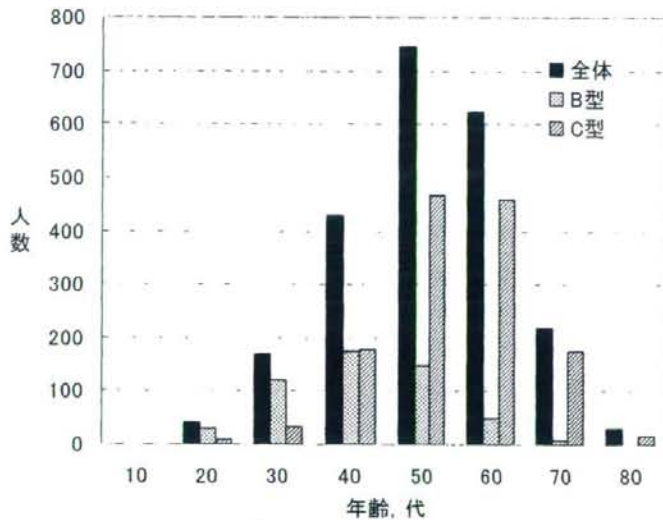


図1 年齢分布

②39%, ③4%, ④5%, C型肝硬変では①65%, ②26%, ③3%, ④6%, アルコール性では①27%, ②57%, ③8%, ④8%, PBCでは①24%, ②57%, ③10%, ④10%, NASHでは①56%, ②22%, ③0%, ④22%であった。

ウイルス性肝硬変のうち、発癌前にインターフェロンや核酸アナログの投与を受けたことのある患者を除外してKaplan-Meier法にて累積発癌率を算出したところ、5, 10, 15年の発癌率はB型で20, 29, 33%, C型で33, 59, 74%であった。

B型肝硬変からの発癌に関する多変量解析(Cox比例ハザードモデル)の結果では、発癌を有意に高める要因は飲酒歴、高AFP血症、高ICG15分値、IFN治療歴がないことであった。またHBV genotypeがA, Bである群と比較してgenotype Cの群では有意差はないものの発癌率が高い傾向であった。さらに核酸アナログ使用群では発癌が抑えられる傾向があり(図4)、また生存率が有意に改善された。

C型肝硬変からの発癌に関する多変量解析

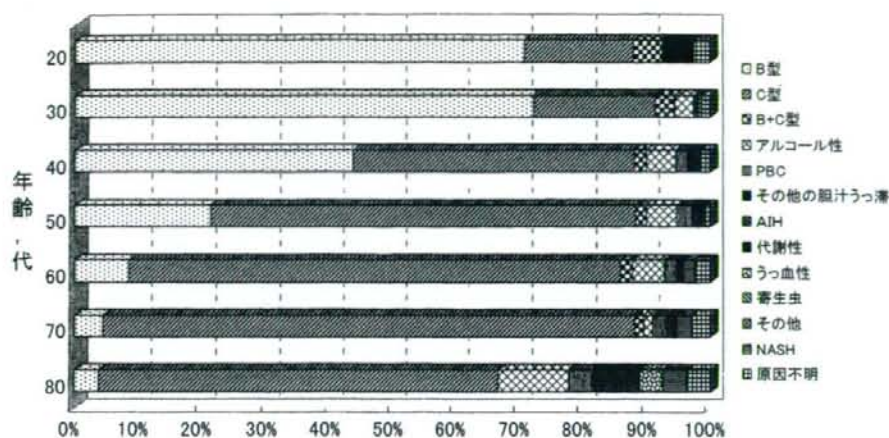


図2 年齢別の成因分類

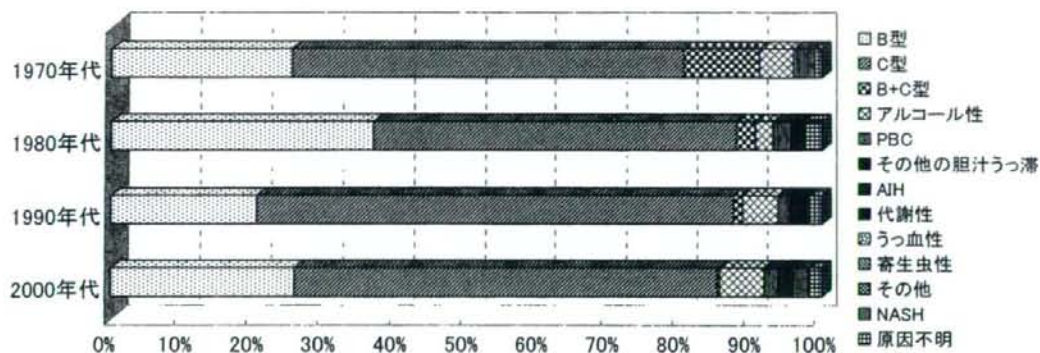


図3 時代別の成因分類

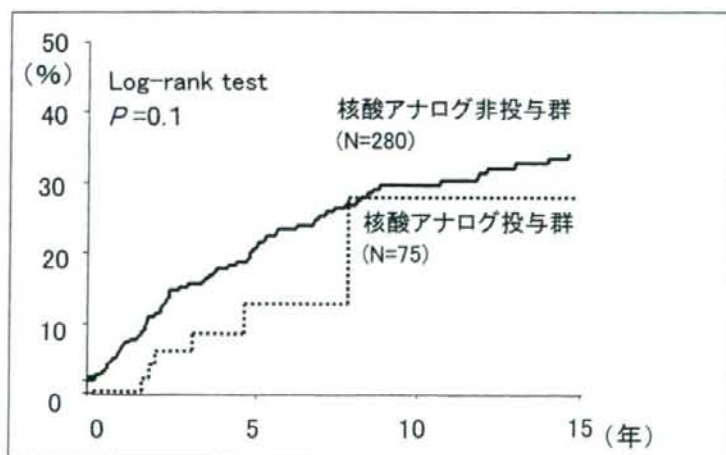


図4 核酸アナログ投与別のB型肝炎硬変発病率 (肝硬変診断時を観察開始とした)

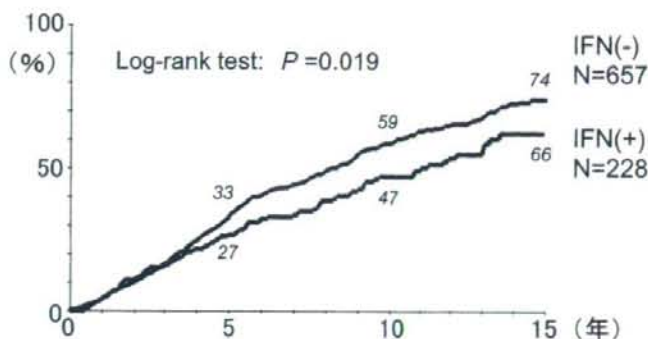


図5 インターフェロン投与別のC型肝硬変発症率 (インターフェロン投与群は投与開始を観察開始とした)

(Cox 比例ハザードモデル)の結果では、発癌を有意に高める要因は低アルブミン血症、男性、高齢、HCV サブタイプ1または200kg以上の飲酒歴、高AFP血症、低血小板血症であった<sup>2)</sup>。さらに、インターフェロンによる医療介入を加えた解析では、ICG15分値とインターフェロン投与も発癌率に寄与する独立要因であった。インターフェロン投与群は非投与群と比較して有意に発癌率が低く(図5)、多変量解析でのハザード比はウイルス排除例+生化学的著効例で0.35、継続投与群で0.47であった。またインターフェロン投与群では生存率も有意に改善された。

## 考 察

1998年の調査と同様に当科の特徴はB型が他施設よりも多いことである。これは地域的な特徴に加えて当施設において1980年代にB型慢性肝炎症例の受診例が多く、その症例が肝硬変へと進展していることも一因である。NASHは1.1%と少数ではあったが、時代とともに増加傾向を示している。NASH肝硬変の場合には発癌を機に発見されることが多く、本報告で除外した肝硬変診断時にすでに肝癌を合併している例を加えると、NASH肝硬変の割合はより高率であることが予想される。

男女比を1990年代と比較すると、C型肝硬変では0.56→0.72と女性の比率の増加がみられ

る。とくに2000年以降にC型肝硬変と初めて診断された例は男女比1:1.05と男女ほぼ同数であった。C型肝硬変以外の成因例では、男女比は1990年代とほぼ同じであった。

肝硬変患者の年齢中央値は徐々に上昇しており高齢化が明らかである。この原因としては、慢性肝炎に対するインターフェロンや核酸アナログなどによる治療が普及し、肝線維化の進行が抑制されていること、肝硬変に対するインターフェロンあるいは核酸アナログによる治療により発癌が抑制されていること、肝癌のコントロールが改善していることなどが考えられる。以前より肝硬変の死因としては癌死が最も多いが、1998年の報告と比較するとB型の癌死は50%→53%、C型は56→65%とともにさらに増加しており、発癌予防の重要性がさらに増している。当院ではB型肝硬変への核酸アナログ投与、C型肝硬変へのインターフェロン投与が以前から試みられており、発癌率、生存率ともに改善するという傾向が認められているが、その結果を確かめるためにさらなる経過観察が必要と考える。

## 文献

- 1) 齊藤 聡, 池田健次, 熊田博光: 肝硬変の成因別実態。「肝硬変の成因別実態」1998, 21-25.
- 2) 池田健次, 熊田博光: B, C型肝癌の背景。「ウイルス性肝炎からの発癌とその予防」2005,



## Substitution of Amino Acid 70 in the Hepatitis C Virus Core Region of Genotype 1b Is an Important Predictor of Elevated Alpha-Fetoprotein in Patients Without Hepatocellular Carcinoma

Norio Akuta,<sup>1\*</sup> Fumitaka Suzuki,<sup>1</sup> Yusuke Kawamura,<sup>1</sup> Hiromi Yatsuji,<sup>1</sup> Hitomi Sezaki,<sup>1</sup> Yoshiyuki Suzuki,<sup>1</sup> Tetsuya Hosaka,<sup>1</sup> Masahiro Kobayashi,<sup>1</sup> Mariko Kobayashi,<sup>2</sup> Yasuji Arase,<sup>1</sup> Kenji Ikeda,<sup>1</sup> and Hiromitsu Kumada<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Hepatology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan

<sup>2</sup>Liver Research Laboratory, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan

Previous studies identified amino acid (aa) substitutions of the hepatitis C virus core region of genotype 1b (HCV-1b core region) and elevated serum alpha-fetoprotein (AFP) levels as predictors of poor virologic response to pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV), and also as risk factors for hepatocarcinogenesis. The present study evaluated the impact of aa substitutions of HCV-1b core region on AFP, as a surrogate marker of hepatocarcinogenesis, on AFP levels in 569 Japanese patients with HCV-1b but without HCC, and investigated the predictive factors of elevated AFP ( $\geq 11 \mu\text{g/L}$ ). High AFP levels were detected in 27.4% of the patients. The rate of hepatocarcinogenesis in a group of 109 patients who received IFN monotherapy and followed-up for 15 years, was significantly higher in patients with abnormal than normal AFP. Multivariate analysis of 569 patients identified fibrosis stage (F3,4), aspartate aminotransferase ( $\geq 76 \text{ IU/L}$ ), substitution of aa 70 (glutamine or histidine), and platelet count ( $< 15.0 \times 10^4/\mu\text{l}$ ) as significant determinants of elevated AFP. In 49 patients with abnormal AFP levels and substitutions at aa 70 who were treated with PEG-IFN + RBV, the rate of normalization of AFP was significantly lower in non-virological responders (28.6%) than in transient (71.4%) and sustained (100%) virological responders. The results indicated that substitution of aa 70 of HCV-1b core region is an important predictor of elevated AFP in non-HCC patients, and that eradication of the mutant virus normalizes AFP. The results highlight the importance of eradication of mutant type virus of aa 70 for reducing the risk of hepatocarcinogenesis.

**J. Med. Virol. 80:1354–1362, 2008.**

© 2008 Wiley-Liss, Inc.

**KEY WORDS:** HCV; core region; genotype; AFP; hepatocellular carcinoma; glutamine; histidine

### INTRODUCTION

Hepatitis C virus (HCV) usually causes chronic infection that can result in chronic hepatitis, liver cirrhosis, and hepatocellular carcinoma (HCC) [Dush-eiko, 1998; Ikeda et al., 1998; Niederau et al., 1998; Kenny-Walsh, 1999; Akuta et al., 2001]. In patients with HCV-chronic hepatitis, treatment with interferon (IFN) can induce viral clearance and marked biochemical and histological improvement [Davis et al., 1989; Di Bisceglie et al., 1989]. Especially, pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV) combination therapy can achieve a high sustained virological response, although patients with non-virological response who remain HCV-RNA-positive at the completion of treatment are also encountered [Akuta et al., 2005, 2006, 2007a,b,c]. Previous studies indicated that amino acid (aa) substitutions at position 70 and/or 91 in the HCV core region of genotype 1b (HCV-1b core region) and elevated alpha-fetoprotein (AFP) levels were predictors of poor virological response to PEG-IFN plus RBV therapy [Akuta et al., 2005, 2006, 2007a,b,c; Donlin et al., 2007], and also risk factors and surrogate markers of hepatocarcinogenesis [Ikeda et al., 2006; Akuta et al., 2007d].

\*Correspondence to: Norio Akuta, MD, Department of Hepatology, Toranomon Hospital, 2-2-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan. E-mail: akuta-gi@umin.ac.jp

Accepted 11 March 2008

DOI 10.1002/jmv.21202

Published online in Wiley InterScience

(www.interscience.wiley.com)

The use of elevated AFP as a predictor of early hepatocarcinogenesis in non-HCC patients might be clinically useful. AFP is a fetal glycoprotein produced by the yolk sac and fetal liver [Bergstrand and Czar, 1956], and has been used widely as a serum marker for the diagnosis of HCC [Sato et al., 1993; Johnson, 2001]. Furthermore, elevated serum AFP is also associated with various chronic liver diseases and hepatic regeneration [Kew et al., 1973; Silver et al., 1974; Elftnerious et al., 1977; Alpert and Feller, 1978]. Although a mild rise in serum AFP is commonly seen in chronic HCV-infected patients, its clinicopathological significance remains to be defined. Previous studies indicated that high serum AFP levels correlated with fibrosis stages 3 and 4 [Bayati et al., 1998; Chu et al., 2001; Hu et al., 2002, 2004], levels of aspartate aminotransferase (AST) and alanine aminotransferase (ALT) [Chu et al., 2001; Stein and Myaing, 2002; Hu et al., 2004], prothrombin time [Hu et al., 2004], and HCV-1b [Chu et al., 2001], in chronic HCV-infected patients. However, it is not clear whether mild elevation of AFP in the absence of HCC is associated with eventual development of HCC in HCV-infected patients. Furthermore, the impact of viral factors, such as aa substitutions of HCV-1b core region, on elevated AFP is still unclear.

The aims of the present study conducted in HCC-free Japanese patients infected with HCV-1b, were the following. (1) To evaluate the impact of elevated AFP, especially mild elevation of AFP, on hepatocarcinogenesis in IFN-treated patients without HCC during a long-term (15 years) follow-up period. (2) To identify the impact of aa substitutions in the core region on AFP levels in such patients, and determine the predictive factors for elevated AFP. (3) To investigate the normalization rates of AFP levels after eradication of HCV-RNA by PEG-IFN plus RBV combination therapy.

## PATIENTS AND METHODS

### Study Population

At Toranomon Hospital, Tokyo, Japan, 2,841 HCV-infected Japanese patients were recruited consecutively into the study protocol of IFN monotherapy between February 1987 and August 2007, and 929 HCV-infected Japanese patients were consecutively recruited into the study protocol of the combination therapy with PEG-IFN $\alpha$ -2b plus RBV between December 2001 and August 2007. Among these, 569 patients were selected in the present retrospective study based on the following criteria. (1) They were negative for hepatitis B surface antigen (radioimmunoassay, Dainabot, Tokyo), positive for anti-HCV (third-generation enzyme immunoassay, Chiron Corp., Emerville, CA), and positive for HCV-RNA qualitative analysis with PCR (nested PCR or Amplicor<sup>TM</sup>, Roche Diagnostics, Indianapolis, IN). (2) They were naive to antiviral treatment. (3) They were infected with HCV-1b alone. (4) AFP levels were measured frequently, and substitutions of aa 70 or 91 in the HCV core region (HCV mutant-70 and HCV mutant-91, respectively) were determined at the commencement

of the first course of antiviral treatment. (5) They were free of HCC based on clinical examination, laboratory tests, and imaging studies at baseline. (6) None was an alcoholic; lifetime cumulative alcohol intake was <500 kg (mild to moderate alcohol intake). (7) All were free of coinfection with human immunodeficiency virus. (8) None had other forms of hepatitis, such as hemochromatosis, Wilson disease, primary biliary cirrhosis, alcoholic liver disease, and autoimmune liver disease. (9) Each signed a consent form of the study protocol that had been approved by the Human Ethics Review Committee of Toranomon Hospital. Table I summarizes the profiles and laboratory data of the 569 patients at the commencement of antiviral treatment. They included 347 males and 222 females, aged 18–77 years (median, 55 years). Of the total group of 569 patients, 229 received IFN monotherapy, while 340 were treated with PEG-IFN plus RBV combination therapy. Among the patients who received IFN monotherapy, 109 patients started the monotherapy between February 1987 and August 1992, received at least two courses of such therapy, and were followed-up for 15 years. They were evaluated for the rate of development of HCC, associated with a rise in AFP level relative to that measured before the first course IFN monotherapy (baseline). At baseline, the latter group consisted of 80 males and 29 females, aged 22–69 with a median age of 46 years. The numbers of patients with fibrosis stages 1, 2, 3, and 4 were 57, 37, 14, and 1, respectively. The median AST and ALT levels were 85 IU/L (range, 27–400 IU/L) and 138 IU/L (range, 50–594 IU/L), respectively. The median platelet count was  $17.0 \times 10^4/\mu\text{l}$  (range,  $9.8 \times 10^4$  to  $31.2 \times 10^4/\mu\text{l}$ ). The median viremia level was 5.8 Mequiv/ml (range, <0.5–46.5 Mequiv/ml). The median AFP level was 5  $\mu\text{g/L}$  (range, 2–239  $\mu\text{g/L}$ ). The median follow-up time was 16.0 years (range, 0.1–20.3 years). With regard to

TABLE I. Profile and Laboratory Data of 569 Patients Infected with HCV Genotype 1b

Number of patients	569
Sex (male/female)	347/222
Age (years)*	55 (18–77)
Serum aspartate aminotransferase (IU/L)*	59 (17–400)
Serum alanine aminotransferase (IU/L)*	84 (15–594)
Platelet count ( $\times 10^4/\mu\text{l}$ )*	16.1 (3.8–40.2)
Serum alpha-fetoprotein ( $\mu\text{g/L}$ )*	6 (2–459)
Fibrosis stage (F1/F2/F3/F4/ND)	227/132/76/17/117
Level of viremia (high titer/low titer)**	522/47
Amino acid substitutions in core region***	
aa 70 (wild/mutant)	340/229
aa 91 (wild/mutant)	341/228
Treatment	
IFN monotherapy/PEG-IFN plus RBV	229/340

Data are number of patients, except those denoted by \*, which represent the median (range) values. (\*\*) Level of viremia was evaluated as high titer ( $\geq 1.0$  Mequiv/ml, or  $\geq 100$  KIU/ml) and low titer ( $< 1.0$  Mequiv/ml, or  $< 100$  KIU/ml). (\*\*\*) The presence of arginine at aa 70 was evaluated as wild type, while other patterns (glutamine/histidine) as mutant type. The presence of leucine at aa 91 was evaluated as wild type, while other patterns (methionine) as mutant type. Normal reference ranges: 11–38 IU/L for aspartate aminotransferase; 6–50 IU/L for alanine aminotransferase (IU/L);  $\leq 10$   $\mu\text{g/L}$  for alpha-fetoprotein. ND: not done; IFN: interferon; PEG-IFN: pegylated interferon; RBV: ribavirin.

the protocol of IFN monotherapy, 68 (62.4%) patients received IFN- $\alpha$  alone; 36 (33.0%) patients received IFN- $\beta$  alone; while the remaining 5 (4.6%) patients received a combination of IFN- $\alpha$  and IFN- $\beta$ . The median IFN dose per day of 6 million units (MU, range; 1–10 MU) was administered. IFN monotherapy included initial aggressive induction therapy, consisting of every day within the first 8 weeks of commencement of therapy, followed subsequently by three times per week.

On the other hand, 340 patients received PEG-IFN $\alpha$ -2b combination therapy at a median dose of 1.5  $\mu$ g/kg (range, 0.8–1.8  $\mu$ g/kg) subcutaneously each week plus oral RBV at a median dose of 11.0 mg/kg (range, 3.4–14.2 mg/kg) daily for a median duration of 48 weeks (range, 9–112 weeks).

In this study, patients who were HCV-RNA-negative by qualitative PCR analysis at 24 weeks after the completion of therapy, were defined as sustained virological responders. On the other hand, patients who were HCV-RNA-negative by qualitative PCR analysis at the completion of 24-week treatment but became HCV-RNA-positive after the 24-week therapy, were defined as transient virological responders. Patients who remained HCV-RNA-positive by quantitative and/or qualitative PCR analyses at the completion and after treatment, were defined as non-virological responders.

### Laboratory Investigations

Blood samples were obtained at least once every month before, during, and after treatment, and were analyzed for AST, ALT, and HCV-RNA levels. The serum samples were frozen at  $-80^{\circ}\text{C}$  within 4 hr of collection and then thawed at the time of measurement. HCV genotype was determined by PCR using a mixed primer set derived from nucleotide sequences of NS5 region [Chayama et al., 1993]. HCV-RNA levels were measured by branched DNA assay version 2.0 (Chiron Corp., Emeryville, CA) or quantitative PCR assay (Cobas Amplicor HCV monitor v 2.0 using the 10-fold dilution method, Roche) before, during, and after the antiviral therapy. The lower limits of these assays were 0.5 Meq/ml ( $10^6$  genomic equivalents per milliliter) by branched DNA assay, or 5 KIU/ml by quantitative PCR assay. Samples with undetectable levels by these quantitative assays ( $<0.5$  Meq/ml, or  $<5$  KIU/ml) were checked also by HCV-RNA qualitative analysis with PCR (nested PCR or Amplicor<sup>TM</sup>, Roche) during and after treatment especially, and the results were expressed as positive or negative. The lower limit of the assay was 50 IU/ml. In this study, levels of viremia were evaluated as high titer ( $\geq 1.0$  Meq/ml, or  $\geq 100$  KIU/ml) and low titer ( $<1.0$  Meq/ml, or  $<100$  KIU/ml).

### Histopathological Examination of Liver Biopsies

Liver biopsy specimens were obtained percutaneously or at peritoneoscopy using a modified Vim Silverman needle with an internal diameter of 2 mm (Tohoku

University style, Kakinuma Factory, Tokyo). The biopsy material was fixed in 10% formalin, and stained with hematoxylin and eosin, Masson's trichrome, silver impregnation, and periodic acid-Schiff after diastase digestion. All specimens for examination contained six or more portal areas. Histopathological diagnosis was confirmed by an experienced liver pathologist (H.K.) who was blinded to the clinical data. Chronic hepatitis and liver cirrhosis were diagnosed based on histological assessment according to the scoring system of Desmet et al. [1994].

### Detection of Amino Acid Substitutions in Core Region

Okamoto et al. [2007] developed a simple PCR method for detecting substitutions of aa 70 or aa 91 in HCV-1b core region using mutation-specific primer, as an alternative to the direct sequencing method. The major protein type was determined based on the relative intensity of the bands for wild (aa 70: arginine, aa 91: leucine) and mutant HCV-1b (aa 70: glutamine/histidine, aa 91: methionine) in agarose gel electrophoresis. If the intensities of the bands were similar, the case was regarded as competitive. The detection rate was 94.4%, the sensitivity was 10 KIU/ml using quantitative assay with PCR (Cobas Amplicor HCV monitor v 2.0 using the 10-fold dilution method, Roche), the reproducibility was high, and consistency with direct sequencing was 97.1% in positive cases. Mutation in this study refers to substitution from consensus sequence. In previous studies, HCV-J (accession no. D90208) was considered a prototype and the aa substitution was evaluated by comparison with the consensus sequence prepared from 50 clinical trial samples [Kato et al., 1990; Akuta et al., 2005]. In the present study, PCR using primers specific for substitutions of aa 70 or aa 91 was performed in samples collected from 454 patients [Okamoto et al., 2007]; the remaining 115 patients were analyzed by direct sequencing [Akuta et al., 2005, 2006].

### Diagnosis of Hepatocellular Carcinoma

Patients were examined for HCC by abdominal ultrasonography every 3–6 months. If HCC was suspected based on ultrasonographic results, additional procedures, such as computed tomography, magnetic resonance imaging, abdominal angiography, and ultrasonography-guided tumor biopsy, were used to confirm the diagnosis.

### Statistical Analysis

Non-parametric tests were used to compare variables between groups, including the Mann-Whitney *U*-test, chi-squared test and Fisher's exact probability test. Multiple comparisons were conducted by the Bonferroni test. The cumulative rate of hepatocarcinogenesis was calculated using the Kaplan-Meier technique; differences between carcinogenesis curves between groups were tested using the log-rank test. Statistical analyses of the rate of hepatocarcinogenesis according to

groups were calculated using the period from start of the first course of IFN monotherapy. Univariate and multivariate logistic regression analyses were used to determine the independent predictive factors of elevated AFP. The odds ratios and 95% confidence intervals (95% CI) were also calculated. All *P* values less than 0.05 by the two-tailed test were considered significant. Variables that achieved statistical significance ( $P < 0.05$ ) or marginal significance ( $P < 0.10$ ) on univariate analysis were entered into multiple logistic regression analysis to identify significant independent factors. Potential predictive factors associated with elevated AFP included the following pretreatment variables: sex, age, AST, ALT, platelets, pathological staging, viremia level, and aa substitutions in the core region. Statistical analyses were performed using the SPSS software (SPSS Inc., Chicago, IL).

## RESULTS

### Cumulative Rate of Hepatocarcinogenesis According to AFP Levels

Of the 229 patients who received IFN monotherapy, 109 could be evaluated for the rate of development of HCC based on AFP levels measured at the start of the first course IFN monotherapy (baseline), during a follow-up period of 15 years. All 109 patients received two or more courses of IFN monotherapy; 66 patients received two courses of IFN (including 16 patients who achieved sustained virological response), 35 patients received three courses (including 4 patients who achieved sustained virological response), 7 patients received four courses (including 1 patient who achieved sustained virological response), and one patient received six courses (did not achieve sustained virological response). Thus, 21 of 109 patients achieved sustained virological response after multicourses of IFN monotherapy. For those who received 1, 2, 3, 4, 5, and 6 courses of IFN monotherapy, the median total duration of IFN therapy was 23.9 weeks (range, 0.9–134.7 weeks), 24.0 (range, 1.3–313.7), 25.1 (range, 3.1–193.1), 40.3 (range, 21.0–86.3), 23.6, and 67.9, respectively, and the median total dose of IFN was 526 MU (range, 22–1393 MU), 589 (range, 57–4005), 501 (range, 28–3477), 536 (range, 363–1553), 708, and 1200, respectively. The median cumulative total duration and cumulative total dose, which represented the cumulative total duration and total dose of every course of every patient were 57.7 weeks (range, 14.0–467.6 weeks) and 1380 MU (range, 521–4805 MU), respectively. The median period during which no IFN was administered was 3.7 years (range, 0.1–7.0 years). Finally, the median dose of IFN per week was 22.5 MU (range, 3.7–43.9).

During the follow-up, 8.6% (7 of 81 patients), 20.0% (3 of 15), and 38.5% (5 of 13) developed HCC in patients with AFP levels below 1 ( $\leq 10$   $\mu\text{g/L}$ ), from 1 to 2 (11–20  $\mu\text{g/L}$ ), and above twice ( $\geq 21$   $\mu\text{g/L}$ ) the upper limit of normal (ULN), respectively. In patients with AFP levels below 1, from 1 to 2, and above 2 times the ULN, the

cumulative hepatocarcinogenesis rates were 0, 7.1, 0% at the end of 5 years; 3.1, 23.4, 37.5% at the end of 10 years; and 14.5, 23.4, 58.3% at the end of 15 years, respectively. The rates were significantly different among the three groups ( $P < 0.001$ ; log-rank test) (Fig. 1). Especially, the rate of hepatocarcinogenesis in patients with normal AFP levels was significantly lower than in those with AFP levels above twice ULN ( $P < 0.001$ ), and tended to be lower than in those with AFP levels from 1 to 2 times ULN ( $P = 0.070$ ). The rate of hepatocarcinogenesis in patients with AFP levels above twice ULN was not significantly higher than in those with AFP levels from 1 to 2 times ULN. Thus, the rate of hepatocarcinogenesis was significantly higher in patients with abnormal AFP levels than in those with normal AFP levels ( $P < 0.001$ ).

### Predictive Factors of Elevated AFP in Univariate and Multivariate Analyses

The virological, clinical, and biochemical features of the whole population sample of 569 patients were analyzed to determine factors that could predict elevated AFP ( $\geq 11$   $\mu\text{g/L}$ ). Elevated AFP was detected in 156 of 569 (27.4%) patients. Univariate analysis identified seven parameters that influenced significantly high AFP level. These included age ( $\geq 45$  years,  $P = 0.001$ ), AST ( $\geq 76$  IU/L,  $P < 0.001$ ), ALT ( $\geq 100$  IU/L,  $P < 0.001$ ), platelets ( $< 15.0 \times 10^4/\mu\text{L}$ ,  $P < 0.001$ ), stage of fibrosis (F3,4,  $P < 0.001$ ), and aa substitutions of the core region (mutant type of aa 70,  $P < 0.001$ , and aa 91,  $P = 0.035$ ). Multivariate analysis identified four parameters that independently influenced high AFP level, including stage of fibrosis (F3,4,  $P < 0.001$ ), AST ( $\geq 76$  IU/L,  $P < 0.001$ ), substitution of aa 70 (mutant type,  $P < 0.001$ ), and platelet count ( $< 15.0 \times 10^4/\mu\text{L}$ ,  $P = 0.019$ ) (Table IIA).

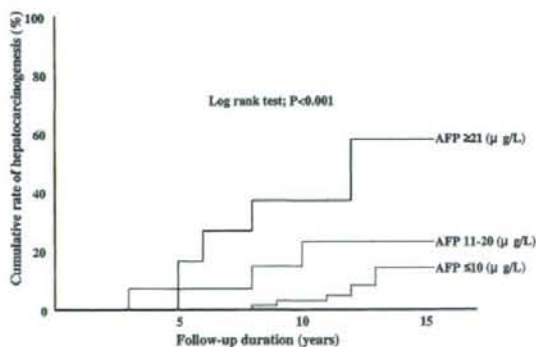


Fig. 1. Cumulative rate of hepatocarcinogenesis according to AFP levels at the start of first course IFN monotherapy. The rate of hepatocarcinogenesis in patients with normal AFP levels ( $\leq 10$   $\mu\text{g/L}$ ) was significantly lower than in those with AFP levels above twice the upper limit of normal ( $\geq 21$   $\mu\text{g/L}$ ) ( $P < 0.001$ ), and tended to be lower than in those with AFP levels from 1 to 2 times the upper limit of normal (11–20  $\mu\text{g/L}$ ) ( $P = 0.070$ ). The rate of hepatocarcinogenesis in patients with abnormal AFP levels ( $\geq 11$   $\mu\text{g/L}$ ) was significantly higher than in those with normal AFP levels ( $P < 0.001$ ).

TABLE IIA. Factors Associated with Elevated Serum AFP Levels ( $\geq 11 \mu\text{g/L}$ ) in Patients Infected with HCV Genotype 1b, Identified by Multivariate Analysis

Factor	Category	Odds ratio (95% CI)	P
Fibrosis stage	1: F1,2	1	
	2: F3,4	5.014 (2.746–9.153)	<0.001
Aspartate aminotransferase (IU/L)	1: <76	1	
	2: $\geq 76$	4.592 (2.707–7.789)	<0.001
Substitution of aa 70	1: wild type	1	
	2: mutant type	2.618 (1.561–4.391)	<0.001
Platelet count ( $\times 10^4/\mu\text{l}$ )	1: $\geq 15.0$	1	
	2: <15.0	1.912 (1.111–3.289)	0.019

\*The presence of arginine at aa 70 was evaluated as wild type, while other patterns (glutamine/histidine) as mutant type. Normal reference ranges:  $\leq 10 \mu\text{g/L}$  for alpha-fetoprotein.

The entire population sample was also analyzed to determine factors that could predict elevated AFP above twice ULN ( $\geq 21 \mu\text{g/L}$ ); which was noted in 75 of 569 (13.2%) patients. Univariate analysis identified seven parameters that significantly influenced elevated AFP above twice ULN. These included age ( $\geq 45$  years,  $P=0.015$ ), AST ( $\geq 76$  IU/L,  $P<0.001$ ), ALT ( $\geq 100$  IU/L,  $P<0.001$ ), platelet count ( $<15.0 \times 10^4/\mu\text{l}$ ,  $P<0.001$ ), stage of fibrosis (F3,4,  $P<0.001$ ), and aa substitutions of the core region (mutant type of aa 70,  $P<0.001$ , and aa 91,  $P=0.008$ ). Multivariate analysis identified four parameters that influenced independently elevated AFP above twice ULN, including stage of fibrosis (F3,4,  $P<0.001$ ), AST ( $\geq 76$  IU/L,  $P<0.001$ ), and aa substitutions of the core region (HCV mutant-91,  $P=0.029$ , and -70,  $P=0.056$ ) (Table IIB).

#### AFP Levels and aa Substitutions of Core Region

The entire population sample was also analyzed to determine the relationship between aa substitutions of the core region and AFP levels. The proportions of patients with HCV mutant-70 among those with AFP levels below 1, from 1 to 2, from 2 to 4, from 4 to 8, and above 8 times ULN were 33.4% (138 of 413 patients), 53.1% (43 of 81), 60.0% (24 of 40), 66.7% (8 of 12), and 69.6% (16 of 23) (Fig. 2A). Thus, the higher the proportion of patients with HCV mutant-70, the higher the AFP level, and significantly lower proportions of patients with HCV mutant-70 were noted among those

with normal AFP levels (33.4%) than those with AFP levels from 1 to 2 times (53.1%) ( $P=0.001$ ) and above twice ULN (64.0%) ( $P<0.001$ ).

The proportions of patients with HCV mutant-91 among those with AFP levels below 1, from 1 to 2, from 2 to 4, from 4 to 8, and above 8 times ULN were 37.3% (154 of 413 patients), 40.7% (33 of 81), 67.5% (27 of 40), 25.0% (3 of 12), and 47.8% (11 of 23) (Fig. 2B). Thus, a higher frequency of HCV mutant-91 did not correlate with high AFP levels. In particular, significantly higher proportion of patients with HCV mutant-91 were noted among those with AFP levels from 2 to 4 times ULN (67.5%) than in those with AFP levels below 2 times (37.9%,  $P<0.001$ ) and above 4 times (40.0%,  $P=0.021$ ).

#### Normalization Rates of AFP Levels Based on Eradication of HCV-RNA With PEG-IFN Plus RBV Combination Therapy

Finally, the proportion of patients who showed normalization of AFP after commencement of PEG-IFN $\alpha$ -2b plus RBV combination therapy was determined in those at high risk for hepatocarcinogenesis, who had abnormal AFP levels ( $>10$  IU/L) and HCV mutant-70 at baseline. Of the 340 patients, 49 had both abnormal AFP level and HCV mutant-70 at baseline. Of these, 14.3% (7 of 49 patients) could achieve sustained virological response, 28.6% (14 of 49) showed transient virological response, and 57.1% (28 of 49) had non-virological response. Table III summarizes the characteristics of

TABLE IIB. Factors Associated with Elevated Serum AFP Above Twice the Upper Limit of Normal ( $\geq 21 \mu\text{g/L}$ ) in Patients Infected with HCV Genotype 1b, Identified by Multivariate Analysis

Factor	Category	Odds ratio (95% CI)	P
Fibrosis stage	1: F1,2	1	
	2: F3,4	6.875 (3.485–13.56)	<0.001
Aspartate aminotransferase (IU/L)	1: <76	1	
	2: $\geq 76$	6.144 (3.088–12.23)	<0.001
Substitution of aa 91	1: wild type	1	
	2: mutant type	2.101 (1.077–4.099)	0.029
Substitution of aa 70	1: wild type	1	
	2: mutant type	1.914 (0.984–3.722)	0.056

\*The presence of arginine at aa 70 was evaluated as wild type, and other patterns (glutamine/histidine) as mutant type. The presence of leucine at aa 91 was evaluated as wild type, and other pattern (methionine) as mutant type. Normal reference ranges:  $\leq 10 \mu\text{g/L}$  for alpha-fetoprotein.

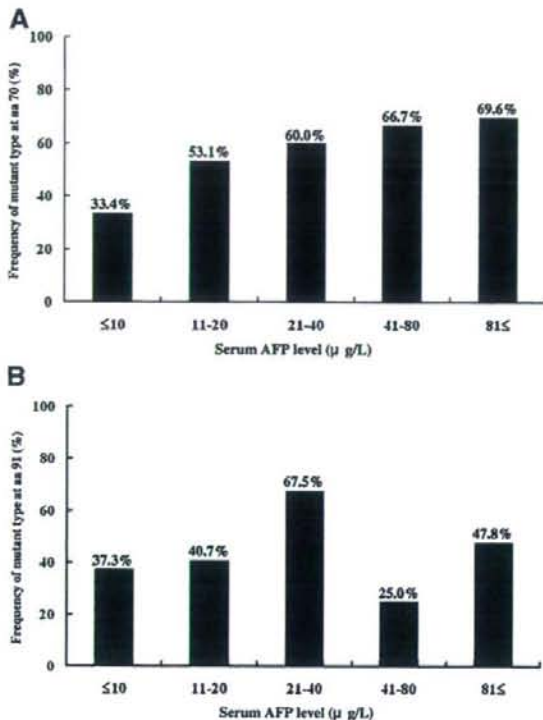


Fig. 2. **A:** Frequency of mutation in aa at position 70 of the HCV-1b core region according to serum AFP levels. Higher frequencies of the mutation correlated with higher serum AFP levels. Significantly lower frequencies of the mutant type were noted in patients with normal AFP levels ( $\leq 10$  µg/L) than in those with levels from 1 to 2 times (11–20 µg/L,  $P = 0.001$ ) and above twice the upper limit of normal ( $\geq 21$  µg/L,  $P < 0.001$ ), respectively. **B:** Frequency of mutation in aa at position 91 of the HCV-1b core region according to serum AFP levels. Higher frequencies of the mutation did not correlate with higher AFP levels. Significantly higher frequencies of the mutant type were noted in patients with AFP levels from 2 to 4 times the upper limit of normal (21–40 µg/L) than in those with levels below 2 times ( $\leq 20$  µg/L,  $P < 0.001$ ) and above 4 times ( $\geq 41$  µg/L,  $P = 0.021$ ).

these 49 patients at the commencement of combination therapy, according to treatment efficacy. The duration of treatment of non-virological responders was significantly shorter than that of sustained- ( $P < 0.001$ ; Bonferroni test) and transient-virological responders ( $P = 0.011$ ; Bonferroni test). Furthermore, AST levels of non-virological responders were significantly lower than those of sustained virological responders ( $P = 0.049$ ; Bonferroni test). However, there were no significant differences in other patient characteristics at the commencement of treatment among the three groups.

The proportions of patients who showed normalization of AFP at the completion of treatment were 71.4% (5 of 7), 71.4% (10 of 14), and 53.6% (15 of 28) for the sustained-, transient-, and non-virological responders, respectively. There were no significant differences in the normalization rates at the completion of treatment among the three groups (Bonferroni test). However, the proportions of patients who showed

normalization of AFP at 24 weeks after completion of treatment were 100% (7 of 7), 71.4% (10 of 14), and 28.6% (8 of 28) in the sustained-, transient-, and non-virological responders, respectively. The normalization rate in non-virological responders was significantly lower than in sustained- ( $P = 0.001$ ; Bonferroni test) and transient virological responders ( $P = 0.012$ ; Bonferroni test) (Fig. 3).

## DISCUSSION

Elevated AFP in HCV-infected patients without HCC might be useful early predictor of hepatocarcinogenesis, but there is little evidence that mild elevation of AFP in such patients is associated with eventual development of HCC. Ikeda et al. [2006] reported that AFP level above twice ULN was an independent and significant determinant of hepatocarcinogenesis in patients with HCV-related cirrhosis. The present study of HCV-infected patients treated with IFN and followed for up to 15 years also showed that the rate of hepatocarcinogenesis was significantly higher in patients with abnormal AFP levels than in those with normal levels. In particular, the rate of hepatocarcinogenesis in patients with normal AFP levels was significantly lower than in those with levels above twice the ULN, and tended to be lower than in those with levels from 1 to 2 times ULN (i.e., mild elevation of AFP). To our knowledge, the present study is the first to report the hepatocarcinogenesis rates according to AFP levels in HCV-infected patients followed over a 15-year period, including mild elevation of AFP in patients without HCC.

Despite numerous epidemiologic studies linking HCV infection and the development of HCC, it remains controversial whether HCV itself plays direct or indirect role in the pathogenesis of HCC [Koike, 2005]. Studies using transgenic mice concluded that the HCV core region can potentially cause HCC [Moriya et al., 1998], but the clinical impact of HCV core region on hepatocarcinogenesis is still not clear. Previous studies identified substitutions in aa 70 and/or 91 in the HCV-1b core region and elevated AFP levels as predictors of poor virological response to PEG-IFN plus RBV [Akuta et al., 2005, 2006, 2007a,b,c; Donlin et al., 2007], and also as risk factors for hepatocarcinogenesis [Ikeda et al., 2006; Akuta et al., 2007d]. It is speculated that cases resistant to treatment might ultimately develop HCC. The present study indicated that mutation in aa 70 in the core region predicted elevation of AFP in HCV-infected non-HCC patients. These results support the oncogenic potential of the HCV core region and clinically link mutations in this region to HCC.

Previous reports identified PA28 $\gamma$ -dependent pathway as a mechanism of HCV-associated hepatocarcinogenesis. Moriishi et al. demonstrated that knockout of the PA28 $\gamma$  gene induced accumulation of HCV core protein in nuclei of hepatocytes of HCV core gene transgenic mice and disrupted the development of both hepatic steatosis and HCC [Moriishi et al., 2003, 2007]. Furthermore, HCV core protein also enhanced the

TABLE III. Patient Characteristics at Commencement of Combination Therapy of Pegylated Interferon  $\alpha$ -2b Plus Ribavirin, of 49 Patients with Abnormal AFP Levels and Mutant Type of aa 70

	SVR (n = 7)	TVR (n = 14)	NVR (n = 28)
Sex (male/female)	3/4	9/5	12/16
Age (years)*	58 (43–64)	56 (34–63)	57 (43–66)
Serum aspartate aminotransferase (IU/L)*	83 (37–324) <sup>a</sup>	84 (34–266)	76 (28–135)
Serum alanine aminotransferase (IU/L)*	99 (41–344)	126 (42–504)	82 (37–218)
Platelet count ( $\times 10^4/\mu\text{l}$ )*	11.6 (8.0–19.3)	14.1 (7.5–20.6)	12.4 (6.6–27.3)
Serum alpha-fetoprotein ( $\mu\text{g/L}$ )*	17 (11–161)	21 (11–38)	22 (11–427)
Fibrosis stage (F1/F2/F3/F4/ND)	0/3/2/0/2	2/0/5/0/7	6/3/7/2/10
Level of viremia (high titer/low titer)**	7/0	14/0	27/1
Amino acid substitutions in core region***			
aa 70 (wild/mutant)	0/7	0/14	0/28
aa 91 (wild/mutant)	5/2	6/8	16/12
Treatment duration (weeks)	75 (60–85) <sup>b</sup>	53 (46–77) <sup>c</sup>	47 (12–112)

Data are number of patients, except those denoted by \*, which represent the median (range) values. (\*\*) Level of viremia was evaluated as high titer ( $\geq 1.0$  Meq/ml, or  $\geq 100$  KIU/ml) and low titer ( $< 1.0$  Meq/ml, or  $< 100$  KIU/ml). (\*\*\*) The presence of arginine at aa 70 was evaluated as wild type, and other patterns (glutamine/histidine) as mutant type. The presence of leucine at aa 91 was evaluated as wild type, and other pattern (methionine) as mutant type. Normal reference ranges: 11–38 IU/L for aspartate aminotransferase; 6–50 IU/L for alanine aminotransferase (IU/L);  $\leq 10$   $\mu\text{g/L}$  for alpha-fetoprotein. SVR: sustained virological response; TVR: transient virological response; NVR: non-virological response; ND: not done. <sup>a</sup> $P = 0.049$ , <sup>b</sup> $P < 0.001$ , <sup>c</sup> $P = 0.011$ , compared with NVR by Bonferroni test.

binding of liver X receptor  $\alpha$  (LXR $\alpha$ )/retinoid X receptor  $\alpha$  (RXR $\alpha$ ) to the LXR-response element in the presence of PA28 $\gamma$  [Moriishi et al., 2007]. Thus, PA28 $\gamma$  could play a crucial role in the development of HCV-associated steatogenesis and hepatocarcinogenesis. Further studies are necessary to link the results of animal studies and the clinical impact of aa substitutions in HCV core region on hepatocarcinogenesis.

Chu et al. [2001] indicated that elevation of AFP in the absence of HCC might be associated with HCV-1b infection, and that such rise could correlate with more severe hepatic necroinflammation and fibrosis/cirrhosis and higher viremia levels. The results of the present study indicated that patients infected with HCV mutation-70 had elevated serum AFP levels, although the relation between HCV mutation-91 and AFP was not

very clear. On the one hand, multivariate analysis identified HCV mutation-91 as an independent and significant determinant of elevated AFP levels above twice the ULN. On the other; however, a significantly higher proportion of patients infected with HCV mutant-91 had AFP levels from 2 to 4 times ULN compared to those with levels below 2 times and levels above 4 times, i.e., there was no relation between the frequency of HCV mutant-91 and serum AFP levels. Further large-scale studies should be performed to investigate the relationship between HCV mutant-91 and elevated AFP.

Previous studies reported that IFN monotherapy [Arase et al., 2007] and IFN plus RBV combination therapy [Yu et al., 2006; Chen et al., 2007] results in reduction of AFP levels and the likelihood of hepatocarcinogenesis. In the present study, viral eradication (sustained virological response) in patients who received PEG-IFN plus RBV combination therapy was associated with normalization of AFP in patients at high risk for hepatocarcinogenesis (i.e., those with abnormal AFP levels and HCV mutant-70). These results emphasize that the risk of hepatocarcinogenesis could be reduced by eradication of HCV mutant-70. The results also showed that the proportion of patients with normalization of AFP levels was significantly higher in transient virological responders than in non-virological responders, suggesting that transient virological response could also result in the suppression of hepatocarcinogenesis, even when a sustained virological response is not achieved. In Japan, only 3 years had elapsed since the introduction of PEG-IFN $\alpha$ -2b plus RBV combination therapy into the Japanese Government Health Insurance system, and accordingly, the long-term effects of this combination therapy on hepatocarcinogenesis could not be evaluated in the present study. Further studies

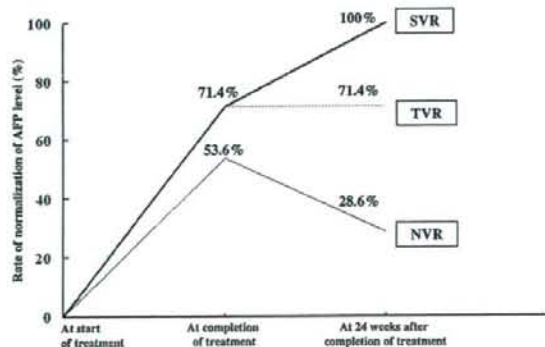


Fig. 3. Normalization rates of AFP levels at and 24 weeks after completion of treatment in sustained virological responders (SVR), transient virological responders (TVR), and non-virological responders (NVR).

that include patients treated with not only IFN but also PEG-IFN plus RBV, should be performed in the future.

In conclusion, the results of the present study indicated that substitution of aa at position 70 of the HCV-1b core region can predict elevation of serum AFP levels in non-HCC patients, and that eradication of the mutant virus seems to induce normalization of AFP. This finding highlights the importance of eradication of this mutant virus in reducing the risk of hepatocarcinogenesis. The limitations of the present study were that it did not investigate other genotypes apart from HCV-1b, the geographic diversities of HCV-1b core region (distribution of wild or mutant type), and the study of other races apart from Asians in Japan. Further prospective studies, matched for HCV genotype, aa substitutions of the core region, and race, of a large group of patients are required to determine the meaning of elevated AFP in non-HCC patients.

#### ACKNOWLEDGMENTS

This study was supported in part by a Grant-in-Aid from the Ministry of Health, Labor, and Welfare, Japan.

#### REFERENCES

- Akuta N, Chayama K, Suzuki F, Someya T, Kobayashi M, Tsubota A, Suzuki Y, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2001. Risk factors of hepatitis C virus-related liver cirrhosis in young adults: Positive family history of liver disease and transporter associated with antigen processing 2 (TAP2) \*0201 allele. *J Med Virol* 64:109–116.
- Akuta N, Suzuki F, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Someya T, Kobayashi M, Saitoh S, Watahiki S, Sato J, Matsuda M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2005. Association of amino acid substitution pattern in core protein of hepatitis C virus genotype 1b high viral load and non-virological response to interferon-ribavirin combination therapy. *Intervirology* 48:372–380.
- Akuta N, Suzuki F, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Someya T, Kobayashi M, Saitoh S, Watahiki S, Sato J, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2006. Predictive factors of virological non-response to interferon-ribavirin combination therapy for patients infected with hepatitis C virus of genotype 1b and high viral load. *J Med Virol* 78:83–90.
- Akuta N, Suzuki F, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2007a. Predictive factors of early and sustained responses to peginterferon plus ribavirin combination therapy in Japanese patients infected with hepatitis C virus genotype 1b: Amino acid substitutions in the core region and low-density lipoprotein cholesterol levels. *J Hepatol* 46:403–410.
- Akuta N, Suzuki F, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2007b. Predictors of viral kinetics to peginterferon plus ribavirin combination therapy in Japanese patients infected with hepatitis C virus genotype 1b. *J Med Virol* 79:1686–1695.
- Akuta N, Suzuki F, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Miyakawa Y, Kumada H. 2007c. Prediction of response to pegylated interferon and ribavirin in hepatitis C by polymorphisms in the viral core protein and very early dynamics of viremia. *Intervirology* 50:361–368.
- Akuta N, Suzuki F, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. 2007d. Amino acid substitutions in the hepatitis C virus core region are the important predictor of hepatocarcinogenesis. *Hepatology* 46:1357–1364.
- Alpert E, Feller ER. 1978.  $\alpha$ -Fetoprotein (AFP) in benign liver disease. *Gastroenterology* 74:856–858.
- Arase Y, Ikeda K, Suzuki F, Suzuki Y, Kobayashi M, Akuta N, Hosaka T, Sezaki H, Yatsuji H, Kawamura Y, Kobayashi M, Kumada H. 2007. Prolonged-interferon therapy reduces hepatocarcinogenesis in aged-patients with chronic hepatitis C. *J Med Virol* 79:1095–1102.
- Bayati N, Silverman AJ, Gordon SC. 1998. Serum alpha-fetoprotein levels and liver histology in patients with chronic hepatitis C. *Am J Gastroenterol* 93:2452–2456.
- Bergstrand CG, Czar B. 1956. Demonstration of a new protein fraction in serum from the human fetus. *Scand J Clin Lab Invest* 8:174.
- Chayama K, Tsubota A, Arase Y, Saitoh S, Koida I, Ikeda K, Matsumoto T, Kobayashi M, Iwasaki S, Koyama S, Morinaga T, Kumada H. 1993. Genotypic subtyping of hepatitis C virus. *J Gastroenterol Hepatol* 8:150–156.
- Chen TM, Huang PT, Tsai MH, Lin LF, Liu CC, Ho KS, Siau CP, Chao PL, Tung JN. 2007. Predictors of alpha-fetoprotein elevation in patients with chronic hepatitis C, but not hepatocellular carcinoma, and its normalization after pegylated interferon alpha 2a-ribavirin combination therapy. *J Gastroenterol Hepatol* 22:669–675.
- Chu CW, Hwang SJ, Luo JC, Lai CR, Tsay SH, Li CP, Wu JC, Chang FY, Lee SD. 2001. Clinical, virological, and pathologic significance of elevated serum alpha-fetoprotein levels in patients with chronic hepatitis C. *J Clin Gastroenterol* 32:240–244.
- Davis GL, Balart LA, Schiff ER, Lindsay K, Bodenheimer HC Jr, Perrillo RP, Carey W, Jacobson IM, Payne J, Dienstag JL, et al. 1989. Treatment of chronic hepatitis C with recombinant interferon alpha. A multicenter randomized, controlled trial. *Hepatitis Interventional Group*. *N Engl J Med* 321:1501–1506.
- Desmet VJ, Gerber M, Hoofnagle JH, Manna M, Scheuer PJ. 1994. Classification of chronic hepatitis: Diagnosis, grading and staging. *Hepatology* 19:1513–1520.
- Di Bisceglie AM, Martin P, Kassianides C, Lisker-Melman M, Murray L, Waggoner J, Goodman Z, Banks SM, Hoofnagle JH. 1989. Recombinant interferon alpha therapy for chronic hepatitis C. A randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *N Engl J Med* 321:1506–1510.
- Donlin MJ, Cannon NA, Yao E, Li J, Wahed A, Taylor MW, Belle SH, Di Bisceglie AM, Aurora R, Tavris JE. 2007. Pretreatment sequence diversity differences in the full-length hepatitis C virus open reading frame correlate with early response to therapy. *J Virol* 81:8211–8224.
- Dusheiko GM. 1998. The natural course of chronic hepatitis C: Implications for clinical practice. *J Viral Hepatol* 9–12.
- Elftthierous N, Heathcote J, Thomas HC, Sherlock S. 1977. Serum alpha-fetoprotein levels in patients with acute and chronic liver disease. *J Clin Pathol* 30:704–708.
- Hu KQ, Esrailian E, Thompson K, Chase R, Kyulo N, Hassen M, Abdelhalim F, Hillebrand DJ, Runyon BA. 2002. Hepatic steatosis is associated with disease progression of chronic hepatitis C: A large cohort study in the United States. *Hepatology* 36:349A.
- Hu KQ, Kyulo N, Lim N, Elhazim B, Hillebrand DJ, Bock T. 2004. Clinical significance of elevated alpha-fetoprotein (AFP) in patients with chronic hepatitis C, but not hepatocellular carcinoma. *Am J Gastroenterol* 99:860–865.
- Ikeda K, Saitoh S, Suzuki Y, Kobayashi M, Tsubota A, Koida I, Arase Y, Fukuda M, Chayama K, Murashima N, Kumada H. 1998. Disease progression and hepatocellular carcinogenesis in patients with chronic viral hepatitis: A prospective observation of 2215 patients. *J Hepatol* 28:930–938.
- Ikeda K, Arase Y, Saitoh S, Kobayashi M, Someya T, Hosaka T, Akuta N, Suzuki Y, Suzuki F, Sezaki H, Kumada H, Tanaka A, Harada H. 2006. Prediction model of hepatocarcinogenesis for patients with hepatitis C virus-related cirrhosis. Validation with internal and external cohorts. *J Hepatol* 44:1089–1097.
- Johnson PJ. 2001. The role of serum alpha-fetoprotein estimation in the diagnosis and management of hepatocellular carcinoma. *Clin Liver Dis* 5:145–159.
- Kato N, Hijikata M, Ootsuyama Y, Nakagawa M, Ohkoshi S, Sugimura T, Shimoto K. 1990. Molecular cloning of the human hepatitis C virus genome from Japanese patients with non-A, non-B hepatitis. *Proc Natl Acad Sci USA* 87:9524–9528.
- Kenny-Walsh E. 1999. Clinical outcomes after hepatitis C infection from contaminated anti-D immune globulin. *Irish Hepatology Research Group*. *N Engl J Med* 340:1228–1233.
- Kew MC, Purves LR, Bersohn I. 1973. Serum alpha-fetoprotein levels in acute viral hepatitis. *Gut* 14:939–942.
- Koike K. 2005. Molecular basis of hepatitis C virus-associated hepatocarcinogenesis: Lessons from animal model studies. *Clin Gastroenterol Hepatol* 3:S132–S135.



- Moriishi K, Okabayashi T, Nakai K, Moriya K, Koike K, Murata S, Chiba S, Tanaka K, Suzuki R, Suzuki T, Miyamura T, Matsuura Y. 2003. Proteasome activator PA28 $\gamma$ -dependent nuclear retention and degradation of hepatitis C virus core protein. *J Virol* 77:10237-10249.
- Moriishi K, Mochizuki R, Moriya K, Miyamoto H, Mori Y, Abe T, Murata S, Tanaka K, Miyamura T, Suzuki T, Koike K, Matsuura Y. 2007. Critical role of PA28 $\gamma$  in hepatitis C virus-associated steatogenesis and hepatocarcinogenesis. *Proc Natl Acad Sci USA* 104:1661-1666.
- Moriya K, Fujie H, Shintani Y, Yotsuyanagi H, Tsutsumi T, Ishibashi K, Matsuura Y, Kimura S, Miyamura T, Koike K. 1998. The core protein of hepatitis C virus induces hepatocellular carcinoma in transgenic mice. *Nat Med* 4:1065-1067.
- Niederau C, Lange S, Heintges T, Erhardt A, Buschkamp M, Hürter D, Nawrocki M, Kruska L, Hensel F, Petry W, Häussinger D. 1998. Progress of chronic hepatitis C: Results of a large, prospective cohort study. *Hepatology* 28:1687-1695.
- Okamoto K, Akuta N, Kumada H, Kobayashi M, Matsuo Y, Tazawa H. 2007. A nucleotide sequence variation detection system for the core region of hepatitis C virus-1b. *J Virol Methods* 141:1-6.
- Sato Y, Nakata K, Kato Y, Shima M, Ishii N, Koji T, Taketa K, Endo Y, Nagataki S. 1993. Early recognition of hepatocellular carcinoma based on altered profiles of alpha-fetoprotein. *N Engl J Med* 328:1802-1806.
- Silver HK, Gold P, Shuster J, Javitt NB, Freedman SO, Finlayson ND. 1974. Alpha 1-fetoprotein in chronic liver disease. *N Engl J Med* 291:506-508.
- Stein DF, Myaing M. 2002. Normalization of markedly elevated  $\alpha$ -fetoprotein in a virologic nonresponder with HCV-related cirrhosis. *Dig Dis Sci* 47:1686-2690.
- Yu ML, Lin SM, Chuang WL, Dai CY, Wang JH, Lu SN, Sheen IS, Chang WY, Lee CM, Liaw YF. 2006. A sustained virological response to interferon or interferon/ribavirin reduces hepatocellular carcinoma and improves survival in chronic hepatitis C: A nationwide, multi-centre study in Taiwan. *Antivir Ther* 11:985-994.

## Efficacy of Low-Dose Intermittent Interferon-Alpha Monotherapy in Patients Infected With Hepatitis C Virus Genotype 1b Who Were Predicted or Failed to Respond to Pegylated Interferon Plus Ribavirin Combination Therapy

Norio Akuta,<sup>1\*</sup> Fumitaka Suzuki,<sup>1</sup> Yusuke Kawamura,<sup>1</sup> Hiromi Yatsuji,<sup>1</sup> Hitomi Sezaki,<sup>1</sup> Yoshiyuki Suzuki,<sup>1</sup> Tetsuya Hosaka,<sup>1</sup> Masahiro Kobayashi,<sup>1</sup> Mariko Kobayashi,<sup>2</sup> Yasuji Arase,<sup>1</sup> Kenji Ikeda,<sup>1</sup> and Hiromitsu Kumada<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Hepatology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan

<sup>2</sup>Liver Research Laboratory, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan

The efficacy of interferon (IFN) monotherapy for non-responders to pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV) combination therapy is still unclear. To evaluate the impact of IFN monotherapy on biochemical response, 200 consecutive patients infected with HCV genotype 1b, who received low-dose intermittent IFN- $\alpha$  monotherapy, were investigated. A median IFN dose per day of 3 million units was administered during a median period of 74 weeks. As a whole, the ALT normalization rates were 50.5, 65.9, 58.4, and 61.7% at 4, 12, 24, and 48 weeks, respectively. In 40 patients, who had abnormal AFP levels at the start of treatment, 52.5% achieved normalization of AFP within 48 weeks. Multivariate analysis identified indocyanine green retention rate at 15 min as the parameter that influenced significantly and independently ALT normalization. ALT normalization rates of patients who were predicted to be poor responders to PEG-IFN plus RBV combination therapy (but not substitutions of amino acid 70 and/or 91 in the HCV core region, female sex, and lower levels of low-density lipoprotein cholesterol) were similar to others. Furthermore, the ALT normalization rates in non-responders to combination therapy were 29.2, 60.9, 60.0, and 40.0% at 4, 12, 24, and 48 weeks, respectively. The results suggest that low-dose intermittent IFN monotherapy is an efficacious therapeutic regimen for patients unsuitable for PEG-IFN plus RBV, including non-responders, because it can lead to ALT normalization and thus a reduced risk of hepatocarcinogenesis. *J. Med. Virol.* 80:1363–1369, 2008. © 2008 Wiley-Liss, Inc.

**KEY WORDS:** HCV; interferon; ribavirin; ALT; hepatocellular carcinoma; core

region; AFP; low-density lipoprotein cholesterol

### INTRODUCTION

Hepatitis C virus (HCV) usually causes chronic infection, which can result in chronic hepatitis, liver cirrhosis, and hepatocellular carcinoma (HCC) [Dush-eiko, 1998; Ikeda et al., 1998; Niederau et al., 1998; Kenny-Walsh, 1999; Akuta et al., 2001]. Treatment of HCV-chronic hepatitis with interferon (IFN) can induce viral clearance and marked biochemical and histological improvement [Davis et al., 1989; Di Bisceglie et al., 1989].

Pegylated interferon (PEG-IFN) plus ribavirin (RBV) combination therapy for chronic HCV infection is expensive and associated with severe side effects but treated patients show a high-sustained virological response. Patients who do not achieve sustained virological response need to be identified before the start of combination therapy, in order to avoid unnecessary side effects and high costs. Thus, the safer IFN monotherapy should be selected as the therapeutic regimen for patients unsuitable for PEG-IFN plus RBV therapy. In a series of papers, Akuta et al. [2005a, 2006, 2007a,b,c] studied determinants of the response to PEG-IFN plus RBV in patients with high titers of genotype 1b ( $\geq 100$  kiloIU [KIU]/ml), which is

Grant sponsor: Ministry of Health, Labor and Welfare, Japan (partial support).

\*Correspondence to: Norio Akuta, MD, Department of Hepatology, Toranomon Hospital, 2-2-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan. E-mail: akuta-gi@umin.ac.jp

Accepted 9 April 2008

DOI 10.1002/jmv.21224

Published online in Wiley InterScience (www.interscience.wiley.com)

dominant in Japan. They identified substitutions of amino acid (aa) 70 and/or 91 in the HCV core region, female sex, and low levels of low-density lipoprotein cholesterol as independent and significant pretreatment negative predictors associated with virological response. Furthermore, previous studies reported that low-dose intermittent IFN monotherapy, as a treatment strategy, induces biochemical response [i.e., normalization of alanine aminotransferase (ALT) and alpha-fetoprotein (AFP) levels] and reduces the risk of hepatocarcinogenesis, even if patients failed to achieve sustained virological response [Arase et al., 2001, 2007; Nomura et al., 2007; McHutchison et al., 2008]. Hence, low-dose intermittent IFN monotherapy might be beneficial therapeutically in reducing the risk of hepatocarcinogenesis in patients who are predicted to be non-responsive to PEG-IFN plus RBV.

The present study included 200 consecutive patients infected with HCV genotype 1b, who were treated by self-injection of low-dose intermittent natural IFN-alpha. The aims of the study were the following. (1) To investigate the normalization rates of alanine aminotransferase (ALT) and  $\alpha$ -fetoprotein (AFP) levels within 48 weeks after the commencement of treatment. (2) To examine the predictive factors associated with ALT normalization. (3) To evaluate the efficacy of IFN monotherapy in patients with predictors of poor response to IFN plus RBV combination therapy. (4) To evaluate the efficacy of IFN monotherapy for non-responders to IFN plus RBV combination therapy.

## PATIENTS AND METHODS

### Patients

Among 252 consecutive HCV-infected patients who started IFN monotherapy between April 2005 and July 2007 at Toranomon Hospital, 200 were selected in the present study based on the following criteria. (1) Patients treated by self-injection of natural IFN-alpha (Sumiferon<sup>®</sup>; Sumitomo Pharmaceutical Co., Osaka, Japan). (2) Patients infected with HCV genotype 1b alone. (3) Patients negative for hepatitis B surface antigen (radioimmunoassay, Dainabot, Tokyo, Japan), positive for anti-HCV (third-generation enzyme immunoassay, Chiron Corp, Emerville, CA), and positive for HCV RNA qualitative analysis with PCR (Amplicor, Roche Diagnostic Systems, Pleasanton, CA). (4) Patients who have not been treated with antiviral or immunosuppressive agents, except for IFN plus RBV combination therapy, within 6 months of enrolment. (5) Patients free of HCC. (6) Patients free of coinfection with human immunodeficiency virus. (7) Lifetime cumulative alcohol intake <500 kg (mild to moderate alcohol intake). (8) Patients free of other types of hepatitis, including hemochromatosis, Wilson disease, primary biliary cirrhosis, alcoholic liver disease, and autoimmune liver disease, and (9) patients who consented to the study.

With regard to the clinical features of 200 patients at the start of IFN monotherapy, there were 103 men and

97 women, aged 27–77 with a median age of 62 years. The median ALT level was 80 IU/L (range, 6–487 IU/L), and the median platelet count was  $13.0 \times 10^4/\text{mm}^3$  (range,  $3.8 \times 10^4$ – $28.0 \times 10^4/\text{mm}^3$ ). The median viremia level was 1,200 KIU/ml (range, 5–>5,000 KIU/ml) (Table I). Furthermore, 162 of the 200 patients (81%) received IFN-alpha monotherapy by three times per week; the remaining 38 patients (19%) received IFN-alpha monotherapy that included an initial daily administration in the first 8 weeks, followed by three times per week. A median IFN dose per day of 3 million units (MU, range; 3–6 MU) was administered during a median period of 74 weeks (range; 2–118 weeks). Of the 200 patients, 40 had not achieved sustained virological response with prior therapy of IFN plus RBV, and especially 27 patients of them had been treated with adequate combination therapy for at least 24 weeks (median, 43 weeks; range, 24–73 weeks).

Efficient treatment represented normalization of ALT levels (normal reference ranges: 6–50 IU/L) and AFP levels (normal reference ranges:  $\leq 20 \mu\text{g/L}$ ) during and at the end of 48-week treatment protocol.

The study protocol was approved by the Human Ethics Review Committee of Toranomon Hospital.

### Laboratory Investigations

Blood samples were obtained at least once every month from the commencement of treatment, and were tested for ALT and AFP levels. The serum samples were frozen at  $-80^\circ\text{C}$  within 4 hr of collection and then thawed at the time of measurement. HCV genotype was determined by PCR using a mixed primer set derived from the nucleotide sequences of NS5 region [Chayama et al., 1993]. HCV-RNA level was measured quantitatively by PCR (Cobas Amplicor HCV monitor v 2.0 using the 10-fold dilution method, Roche Diagnostics, Indianapolis, IN) at the commencement of treatment. The lower detection limit of the assay was 5 KIU/ml.

### Detection of Amino Acid Substitutions in Core Region

With use of HCV-J (accession no. D90208) as a reference [Kato et al., 1990], the sequence of 1–191 aa in the core protein of genotype 1b was determined, and it was compared with the consensus sequence constructed on 50 clinical samples [Akuta et al., 2005a] for detecting substitutions at aa 70 of arginine (wild) or glutamine/histidine (mutant) and aa 91 of leucine (wild) or methionine (mutant). In the present study, aa substitutions of the core region were analyzed by direct sequencing [Akuta et al., 2005a, 2006]. The PCR genotyping could be performed in 193 patients; the remaining seven patients could not be analyzed due to the lack of adequate serum samples obtained before treatment.

### Histopathological Examination of the Liver

Liver biopsy specimens were obtained percutaneously or at peritoneoscopy using a modified Vim Silverman

TABLE I. Patient Profile and Laboratory Data at Commencement of Interferon Monotherapy in 200 Patients Infected With HCV Genotype 1b

Demographic data	
Number of patients	200
Sex (M/F)	103/97
Age (years)*	62 (27–77)
History of blood transfusion	81 (40.5%)
Family history of liver disease	58 (29.0%)
Body mass index (kg/m <sup>2</sup> )*	22.8 (15.6–32.9)
Laboratory data*	
Serum aspartate aminotransferase (IU/L)	69 (18–756)
Serum alanine aminotransferase (IU/L)	80 (6–487)
Serum albumin (g/dl)	3.7 (2.6–4.4)
Gamma-glutamyl transpeptidase (IU/L)	49 (11–368)
Leukocyte count (/mm <sup>3</sup> )	4,000 (1,700–8,100)
Hemoglobin (g/dl)	13.9 (8.9–17.3)
Platelet count ( $\times 10^4$ /mm <sup>3</sup> )	13.0 (3.8–28.0)
Indocyanine green retention rate at 15 min (%)	20 (4–62)
Serum iron ( $\mu$ g/dl)	146 (37–322)
Serum ferritin ( $\mu$ g/L)	136 (<10–1,308)
Creatinine clearance (ml/min)	99 (13–167)
Level of viremia (KIU/ml)	1,200 (5–>5,000)
Alpha-fetoprotein ( $\mu$ g/L)	9 (2–398)
Total cholesterol (mg/dl)	165 (15–296)
High-density lipoprotein cholesterol (mg/dl)	45 (21–80)
Low-density lipoprotein cholesterol (mg/dl)	96 (43–237)
Triglycerides (mg/dl)	93 (46–228)
Uric acid (mg/dl)	5.4 (2.8–9.4)
Fasting blood sugar (mg/dl)	97 (67–228)
Histological findings	
Stage of fibrosis (F1/F2/F3/F4/ND)	45/42/35/19/59
Hepatocyte steatosis (none to mild/moderate to severe/ND)	90/24/86
Treatment	
Interferon dose (million units/day)	3 (3–6)
Presence of initial daily interferon administration	38 (19.0%)
Amino acid substitutions in the core region*	
aa 70 (wild/non-wild/ND)	118/72/3
aa 91 (wild/non-wild/ND)	124/69/0
aa 70 and aa 91 (double wild/non-double wild/ND)	76/115/2

Data are number and percentage of patients, except those denoted by \*, which represent the median (range) values.

Two patterns of mutant and competitive are indicated as non-wild. The pattern of wild at aa 70 and wild at aa 91 was evaluated as double wild-type, and the other patterns were non-double wild-type. ND, not determined.

\*Amino acid substitutions were evaluated in 193 patient using pretreatment sera by direct sequencing.

needle with an internal diameter of 2 mm (Tohoku University style, Kakinuma Factory, Tokyo, Japan), fixed in 10% formalin, and stained with hematoxylin and eosin, Masson's trichrome, silver impregnation, and periodic acid-Schiff after diastase digestion. All specimens for examination contained six or more portal areas. Histopathological diagnosis was made by an experienced liver pathologist (HK) who was blinded to the clinical data. Chronic hepatitis was diagnosed based on histopathological assessment according to the scoring system of Desmet et al. [1994].

### Follow-Up

Clinical and laboratory assessments were performed at least once every month from the commencement of treatment. Adverse effects were monitored clinically by careful interviews and medical examination at least once every month. Patient compliance with treatment was evaluated with a questionnaire. Blood samples were also obtained at least once every month from the commencement of treatment, and were also analyzed

for levels of ALT and AFP at various time points. Follow-up time represented the time from the start of treatment until the stop of treatment, or until the last visit.

### Statistical Analysis

Analysis of efficacy of treatment was performed on an intention to treat basis. The  $\chi^2$  test, Fisher's exact probability test, and Mann-Whitney's *U*-test were used to compare the background characteristics between groups. The cumulative ALT normalization rates were calculated using the Kaplan-Meier technique; differences between the curves were tested using the log-rank test. Statistical analyses of ALT normalization according to groups were calculated using the period from the commencement of IFN monotherapy. Stepwise Cox regression analysis was used to determine independent predictive factors that were associated with ALT normalization within 48 weeks after the commencement of treatment. The odds ratios and 95% confidence intervals (95%CI) were also calculated. Potential predictive factors associated with ALT normalization